

2022年度 授業計画（シラバス）

科目名	関係法規・制度		学科名	ヘアビューティ			必須・選択	必須
担当教員	山中 一馬		学年・学期	2年・通年	時間数	30 時間	授業方法	講義
授業概要 ・ 授業内容	<p>・美容師法をはじめとする美容師の業務に関する衛生法規や制度、消費者の保護法規や制度、また、公衆衛生を担う美容師の社会責務、職業倫理について学習する。</p> <p>・授業は講義形式で、教科書に沿った内容で作成したオリジナルレジュメを配布しインプット授業を行い、單元ごとにワークブックを用いたアウトプット演習を行う事で到達度を確認しながら進めていく。中間及び期末試験では、過去問の出題傾向からその年の出題単元を予想した問題を解答させ評価する。</p>							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 美容師国家試験（関係法規・制度）合格水準に100%到達させる。 2. 美容師の社会的責任・職業倫理を理解させる。 3. 美容師制度に関する法的規制、制度を理解させる。 							
授業計画・内容								
第1週	関係法規・制度を受講するにあたって			第16週	前期試験の復習			
第2週	法制度の概要①			第17週	美容師と理容師 業務比較			
第3週	法制度の概要②			第18週	美容師試験			
第4週	衛生法規の概要①			第19週	美容師免許と登録			
第5週	衛生法規の概要②			第20週	美容師免許の変更届			
第6週	法と行政の関係①			第21週	業務停止、免許取消・再免許			
第7週	法と行政の関係②			第22週	管理美容師			
第8週	衛生行政の意義と歴史①			第23週	美容所の開設			
第9週	衛生行政の意義と歴史②			第24週	美容師が講ずべき衛生管理			
第10週	衛生行政の種類①			第25週	開設者が講ずべき衛生管理			
第11週	衛生行政の種類②			第26週	立入検査・環境衛生監視員			
第12週	衛生行政機関について			第27週	行政処分			
第13週	美容師法の目的			第28週	罰則			
第14週	美容師法の体系			第29週	生活衛生法 試験出題対策			
第15週	用語の定義			第30週	総まとめ			
評価方法	<p>定期試験（前期・後期試験）を実施し、授業態度、出席状況を考慮して成績を評価する。</p> <p>評価目安：定期試験（90%）・授業態度や出席（10%）</p>							
教科書 教材など	<p>公益財団法人 日本理容美容教育センター発行。 書名：関係法規・制度ト及びワークブック</p>							
実務経験	法律事務所3年勤務					実務経験のある教員による 授業科目		✓

2022年度 授業計画（シラバス）

科目名	衛生管理		学科名	ヘアビューティ			授業方法	必須
担当教員	難波 弘行・森下 堅一		学年・学期	2年・通年	時間数	30時間	必須・選択	講義
授業概要	<p>・美容所における、消毒の意義と目的を伝え、消毒方法の種類、原理、特徴を理解する。また、美容器具などの対象物の材質、構造などに応じた適切な消毒方法の選択と適切な実践方法を学ぶことにより、美容所において用いられる代表的な消毒方法と正しい操作方法を身に付ける。</p> <p>・授業は講義形式で、美容師国家試験（筆記）で過去に出題された部分を中心に、單元ごとにまとめたものをパワーポイントを使用して説明を行う。学生には重要点をノートにまとめてもらい、テスト前にすぐに確認ができるようなものを作成してもらう。ノートの提出や小テストも行い、学期末には前・後期テストを実施する。</p>							
授業内容								
到達目標	<p>・美容業務の衛生性を向上させる為に、美容器具などの消毒法の意義と原理を理解させ適正な実施方法を身に付けさせる。</p> <p>・美容師国家試験（筆記）課題でもあり、1年次に学習した「公衆衛生」「環境衛生」「感染症」と合わせて、2年次で学習する「衛生管理技術」を理解することで、美容師国家試験合格を目標とする。</p>							
授業計画・内容								
第1週	4編 衛生管理技術 1章 消毒法総論 1節 消毒とは ・病原微生物と非病原微生物			第16週	1節 各種消毒薬 ・常備しておくよい消毒薬と希釈液の濃度 ・希釈法			
第2週	1節 消毒とは ・消毒の原理			第17週	2節 理容所・美容所の消毒の実際 ・理、美容所における消毒の原則 ・消毒設備			
第3週	2節 消毒の意義 ・汚染、感染、発病と消毒の意義			第18週	2節 理容所・美容所の消毒の実際 ・理、美容器具類の消毒法 ・手指の消毒			
第4週	2節 消毒の意義 ・殺菌、消毒、滅菌、防腐の定義			第19週	2節 理容所・美容所の消毒の実際 ・その他のものの消毒			
第5週	3節 理容・美容の業務と消毒との関係 ・消毒に関連のある法の規定			第20週	2節 理容所・美容所の消毒の実際 ・理、美容所の消毒の現状			
第6週	3節 理容・美容の業務と消毒との関係 ・消毒を怠った場合の危険性と理・美容師の責任			第21週	3節 理容所・美容所の清潔法の実際 ・清潔保持と清掃 ・洗剤による清浄法			
第7週	4節 消毒法と適用上の注意 ・消毒法の種類 ・消毒に必要な条件			第22週	3節 理容所・美容所の清潔法の実際 ・洗い場の構造と清潔保持 ・清掃			
第8週	4節 消毒法と適用上の注意 ・病原微生物の抵抗力 ・消毒薬の使用と注意			第23週	3節 理容所・美容所の清潔法の実際 ・刈り取った毛の処理、汚物箱の消毒 ・ハエやカの駆除			
第9週	4編 衛生管理技術 2章 消毒法各論 1節 理学的消毒法 ・紫外線消毒 ・煮沸消毒			第24週	5編 衛生管理の実践例 1章 理・美容所における衛生管理要領			
第10週	1節 理学的消毒法 ・蒸気消毒 ・その他の理学的消毒法			第25週	5編 衛生管理の実践例 2章 理・美容所の自主管理点検票			
第11週	2節 化学的消毒法 ・アルコール類、次亜塩素酸ナトリウムによる消毒			第26週	公衆衛生 まとめ (国家試験対策)			
第12週	2節 化学的消毒法 ・界面活性剤、グルコン酸クロルヘキシジンによる消毒			第27週	環境衛生 まとめ (国家試験対策)			
第13週	2節 化学的消毒法 ・その他の消毒			第28週	感染症 まとめ (国家試験対策)			
第14週	3節 すぐれた消毒法とその実施上の注意 ・すぐれた消毒法の条件 ・消毒を行う際の注意事項			第29週	衛生管理技術 まとめ (国家試験対策)			
第15週	4編 衛生管理技術 3章 消毒法実習 1節 各種消毒薬 ・消毒薬の概要 ・器具の使い方			第30週	衛生管理 総まとめ (国家試験対策)			
評価方法	<p>定期試験(前期・後期)を実施し、ノートの提出、小テスト、授業態度や出席状況を考慮して成績を評価する。 ※定期試験(80%)・ノートの提出や小テスト(10%)・授業態度や出席(10%)</p>							
教科書 教材など	<p>・「衛生管理」 公益社団法人 日本理容美容教育センター発行 ・プロジェクター（パワーポイント使用） ・冊子(練習問題など)</p>							
実務経験	難波 弘行：松山大学薬学部教授歴11年 森下 堅一：美容師歴7年					実務経験のある教員による 授業科目		✓

2022年度 授業計画（シラバス）

科目名	保健		学科・コース名	ヘアビューティ学科・ヘアビューティコース			
担当教員	岩瀬 泰	学年・学期	2年・通年	時間数	60時間	必須・選択	必須
授業概要 ・ 授業方法	<p>・美容の業務は人の容姿を美しくするだけではなく、人体の構造及び各機能についての知識が美容師として必要であることを理解させる。</p> <p>・授業は講義形式でプロジェクターを使用し写真や図などを表示しすることで、理解を深めていき、また小テストや提出物により理解できていない単元をピックアップし再度教える。</p>						
到達目標	<p>・美容師試験筆記課題のため、1年次の復習を行う。引き続き2年次も各単元の解説と、重要点をノートにまとめ提出させ確認させる。また、年度末に全体の復習や確認をすることにより、国家試験筆記の合格を目指す。</p>						
授業計画・内容							
第1週	人体についての復習 1~2章	第16週	4章 皮膚付属機関の生理機能 *体温調節作用及び、知覚と皮膚反射				
第2週	人体についての復習 3~4章	第17週	4章 皮膚付属機関の生理機能 *分泌排泄作用及び、呼吸・吸収作用				
第3週	人体についての復習 5~6章	第18週	4章 皮膚付属機関の生理機能 *貯蔵作用及び、免疫・解毒作用				
第4週	人体についての復習 7~8章	第19週	4章 皮膚付属機関の生理機能 単元テスト *再生作用及び、毛と爪のはたらき				
第5週	復習まとめテスト及び、回答・解説	第20週	5章 皮膚付属器官の保健 解答 *皮膚と健康・精神・栄養について				
第6週	皮膚科学 皮膚とは何か	第21週	5章 皮膚付属器官の保健 *皮膚と体内病変について				
第7週	1章 皮膚の構造 *各部の構造および、名称について	第22週	5章 皮膚付属器官の保健 *皮膚と水分・脂について				
第8週	1章 表皮について *各層の構造および、細胞・名称について	第23週	5章 皮膚付属器官の保健 *ホルモンと皮膚の保護手入れについて				
第9週	1章 真皮・皮下組織について *各層の構造及び、役割について	第24週	6章 皮膚付属器官の疾患 *皮膚の異常とその種類、アレルギーについて				
第10週	1章 部皮膚の位差 単元テスト *各部位の差と特徴について	第25週	6章 皮膚付属器官の疾患 *湿疹・蕁麻疹等				
第11週	2章 皮膚付属機関の構造 *毛の構造と成長・周期	第26週	6章 皮膚付属器官の疾患 *温熱・寒冷、角化異常について				
第12週	2章 皮膚付属機関の構造。 *脂腺汗腺について	第27週	6章 皮膚付属器官の疾患 *色素異常・分泌異常について				
第13週	2章 皮膚付属機関の構造。 単元テスト *爪や立毛筋について	第28週	6章 皮膚付属器官の疾患 単元テスト *細菌・ウイルスによる疾患				
第14週	3章 皮膚の循環と神経 及び単元テスト	第29週	解答及び、人体まとめ *過去問形式				
第15週	4章 皮膚付属機関の生理機能 *対外保護作用	第30週	皮膚科学まとめ *過去問形式				
評価方法	<p>・定期試験を実施すると共に授業時の重要ポイントをまとめたノートの提出・小テスト、授業態度や出席状況を考慮して成績を評価する。</p> <p>※評価目安：定期試験（70％）・ノート提出・小テスト（20％）・授業態度や出席（10％）</p>						
教科書 教材など	<p>①公益社団法人日本理容美容教育センター発行：書名「保健」</p> <p>②視聴覚教材：プロジェクター（パワーポイント）</p>						
実務経験	美容師経歴23年			実務経験のある教員による 授業科目		✓	

2022年度 授業計画（シラバス）

科目名	化粧品化学		学科名	ヘアビューティ学科		授業方法	
担当教員	仁井名 由記		学年・学期	2年・通年	時間数	30時間	必須・選択 必須
授業概要 ・ 授業内容	<p>・化粧品の原料や配合などの成り立ち、性状、使用目的のほか、どのような薬品が化粧品に属するのか、その定義、社会的意義や特性、法的な根拠、製品の安定性について学習していく。</p> <p>・授業は講義形式で、单元ごとにテストを行い、結果により理解度を確認しながら授業展開を進めていく。</p>						
到達目標	<p>国家試験合格を目標にして、そこにたどり着くための忍耐力を養う。また美容師として身に付けなければならない知識を得て就職してから役立てられるようにしていく。</p>						
授業計画・内容							
第1週	5章 頭皮・毛髪用化粧品 1節シャンプー剤		第16週	5節 育毛剤 1 育毛の原因			
第2週	2 ヘアリンス剤		第17週	2 育毛剤の種類と機能 3 育毛・養毛の原料			
第3週	3 ヘアトリートメント剤		第18週	6章 芳香製品と特殊化粧品 1節 芳香製品 1 香水 2 オーデオロン 3 その他芳香製品			
第4週	2節 スタイリング剤 1 スタイリング剤の機能		第19週	2節 特殊香化粧品 1 サンケア製品 2 美白用香商品			
第5週	2 油性スタイリング剤		第20週	3制汗防臭剤 4 ニキビ化粧品			
第6週	3 液状スタイリング剤 4 高分子物質を基材とするスタイリング剤		第21週	6章 芳香製品と特殊化粧品 1節 芳香製品			
第7週	3節 パーマ剤 1 パーマの原理		第22週	2節 特殊化粧品 1 サンケア製品 2 美白用化粧品			
第8週	2 パーマ剤の分類		第23週	3制汗防臭剤 4 ニキビ化粧品			
第9週	3 パーマ剤第1剤		第24週	ワークブックによる演習			
第10週	4 パーマ第2剤 5 パーマ剤の使用上の注意		第25週	ワークブックによる演習			
第11週	4節 ヘアカラー製品 1 ヘアカラー製品の種類と染毛メカニズム		第26週	ワークブックによる演習			
第12週	2 一時染毛料		第27週	ワークブックによる演習			
第13週	3 半永久染毛料		第28週	ワークブックによる演習			
第14週	4 脱色剤・脱線剤		第29週	ワークブックによる演習			
第15週	5 永久染毛剤 6 ヘアカラー製品の使用上の注意		第30週	ワークブックによる演習			
評価方法	<p>定期試験と毎授業時間後に行う小テスト、課題、出席状況、授業態度を考慮して成績を評価する。 ※評価目安：定期試験34% 小テストやレポート33% 授業態度33%</p>						
教科書 教材など	出版社：公益社団法人、日本理容美容教育センター。			書名：化粧品化学			
実務経験	株式会社 毛髪クリニックリーブ21 3年				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2022年度 授業計画（シラバス）

科目名	文化論	学科名	ヘアビューティ学科			授業方法		講義	
担当教員	神崎 順治	学年・学期	2年・通年	時間数	30 時間	必須・選択	必須		
授業概要 授業内容	<p>◇古代から現代まへのファッション文化を学び、理容・美容業の成り立ちやお客様とのコンセンサスを得るための基礎として、理容・美容の文化を学ぶ。</p> <p>◇授業はテキストを基に、歴史の流れや、日本・欧の文化の相違や関連を感じ易くするために、日本と西洋の同時代を、講義形式やグループワークで交互に進める。</p> <p>◇理容・美容の歴史に加え、2年次のヘアデザイン画の為の基礎練習として鉛筆デッサンや色鉛筆を使用して、彩色などの実技を履修する。</p>								
到達目標	<p>◇本科目のねらいは、時代の流れとそこに生活する人々に育まれたヘアファッションの文化を学びこれからの時代やお客様の求めている「美しさ」を理解するための基礎を身に付ける。</p> <p>◇美容師国家試験（筆記試験）に向け、理容・美容の歴史を学び、2年次に学力を定着できるように歴史の流れを理解する。</p> <p>◇デザイン画を通して、自分の思い描いたイメージを形にし、お客様に伝えられるようにする。</p>								
授業計画・内容									
第1週	オリエンテーション 総論と概要	第16週	【ファッション文化史 西洋編】 古代エジプト・古代ギリシャ・ローマ						
第2週	【ファッション文化史 日本編】 (近世Ⅰ) 戦国末期～安土桃山時代	第17週	【ファッション文化史 西洋編】 古代ゲルマン・中世ヨーロッパ						
第3週	【ファッション文化史 日本編】 (近世Ⅱ) 江戸時代-1	第18週	【ファッション文化史 西洋編】 <近世Ⅰ・Ⅱ> (16世紀・17世紀)						
第4週	【ファッション文化史 日本編】 (近世Ⅱ) 江戸時代-2	第19週	【ファッション文化史 西洋編】 <近世Ⅲ> (18世紀)						
第5週	【ファッション文化史 日本編】 (近世Ⅱ) 江戸時代-3	第20週	【ファッション文化史 西洋編】 <近代Ⅰ> (18世紀末～19世紀初め)						
第6週	【ファッション文化史 日本編】 (近代Ⅰ) 明治時代-1	第21週	【ファッション文化史 西洋編】 <近代Ⅱ> (19世紀)						
第7週	【ファッション文化史 日本編】 (近代Ⅰ) 明治時代-2	第22週	【ファッション文化史 西洋編】 <現代Ⅰ> (1910年代～1920年代)						
第8週	【ファッション文化史 日本編】 (近代Ⅰ) 明治時代-3	第23週	【ファッション文化史 西洋編】 <現代Ⅱ> (1930年代～1940年代前半)						
第9週	【ファッション文化史 日本編】 (近代Ⅱ) 大正時代	第24週	【ファッション文化史 西洋編】 <現代Ⅲ> (1940年代後半～1950年代)						
第10週	【ファッション文化史 日本編】 (近代Ⅲ) 昭和20年まで-1	第25週	【ファッション文化史 西洋編】 <現代Ⅳ> (1960年代)						
第11週	【ファッション文化史 日本編】 (近代Ⅲ) 昭和20年まで-2	第26週	【ファッション文化史 西洋編】 <現代Ⅴ> (1970年代)						
第12週	【ファッション文化史 日本編】 (現代Ⅰ) 1945年～1950年代	第27週	【ファッション文化史 西洋編】 <現代Ⅵ> (1980年代)						
第13週	【ファッション文化史 日本編】 (現代Ⅱ) 1960年～1970年代	第28週	【ファッション文化史 西洋編】 <現代Ⅶ> (1990年代～2010年)						
第14週	【ファッション文化史 日本編】 (現代Ⅲ) 1980年～1990年代	第29週	【礼装の種類】 和装の礼装・洋装の礼装						
第15週	【ファッション文化史 日本編】 (現代Ⅳ) 2000年代以降	第30週	日本・欧米のファッション文化史 前期・後期講義の重要事項の纏め（国家試験に向けて）						
評価方法	<p>◇定期試験（前期・後期）を実施し、提出物（授業でのプリント・実技）、授業態度や出席状況を考慮して、成績を評価する。</p> <p>《評価の目安》定期試験（70%）・提出物（20%）・授業態度及び出席（10%）</p>								
教科書 教材など	◇出版社：公益社団法人 日本理容美容教育センター 書名：文化論								
実務経験	中学校教諭一級免許(美術)					実務経験のある教員による 授業科目			

2022年度 授業計画（シラバス）

科目名	運営管理		学科名	ヘアビューティ学科		授業方法	講義	
担当教員	井上祐樹		学年・学期	2年・通年	時間数	30時間	必須・選択	必須
授業概要	<p>・ 経営者の考え方、従業員の在り方、顧客に対しての満足されるサービスなど、美容業における経営、接客に必要な基本的な知識や方法について学ぶ。</p> <p>・ 授業は講義形式でパワーポイントを使い、簡潔かつ分かりやすくまとめる。美容業にとどまらず、学生に分かりやすい例をあげながら展開し、国家試験対策、将来の経営者になりたいと思う学生の知識が増えるよう授業を行っていく。</p>							
授業内容								
到達目標	<p>・ 本科目「運営管理」のねらいは、国家試験必須科目になっているので、国家試験の合格が出来るようにすることにある。同時に基本的な経営知識、顧客志向、美容業についてなどサービス業（美容業）について理解を深め、働くことの意義や職業理解を通じて、学生の目標を実現に役立てるようにする。</p>							
授業計画・内容								
第1週	第1節 経営が必要とされる理由 第2節 経営が厳しい理由＝経営が必要な理由	第16週	第5節 キャリアプランの重要性 第6節 仕事をするうえで考えるべきこと					
第2週	第3節 経営とは何か 第4節 経営資源と経営計画	第17週	第1節 顧客が求める価値 第2節 価値の実現					
第3週	第5節 経営戦略 第6節 経営戦略の目的・よい店の実現	第18週	第3節 顧客満足の実現のためのシステム 第4節 最も重要な価値：人					
第4週	第1節 業界の概要 第2節 競争の変化	第19週	第5節 価値の多様性 顧客が求めるもの 第6節 サービスの範囲					
第5週	第3節 サービスとしての理容・美容 第4節 理容業・美容業の顧客について	第20週	第1節 理容業・美容業のマーケティング 第2節 マーケティング・ミックス					
第6週	第1節 資金簡易の重要性 第2節 収支と損益	第21週	第3節 マーケティング・ミックスの要因 短期的要因① 第4節 マーケティング・ミックスの要因 短期的要因②					
第7週	第3節 会計の考え方 第4節 コストを管理する	第22週	第5節 マーケティング・ミックスの要因 長期的要因① 第6節 マーケティング・ミックスの要因 長期的要因②					
第8週	第5節 税金について 第1編 まとめ	第23週	第7節 サービスのシステム化					
第9週	第1節 人という資源とは 第2節 人の能力を高める	第24週	第1節 接客についての理解 第2節 よい接客のために					
第10週	第3節 人をやる気にさせるには 第4節 給与	第25週	第3節 接客の実践① 第4節 接客の実践②					
第11週	第5節 待遇・福利厚生 第6節 労働者の権利	第26週	第5節 接客の実践③ 第6節 接客の実践④					
第12週	第1節 健康管理の基礎 第2節 理・美容の仕事と健康	第27週	第7節 接客の実践⑤ 第8節 接客におけるトラブルと対応					
第13週	第3節 理・美容業に特徴的な健康問題 第4節 理・美容の作業環境に関する健康管理	第28週	第9節 接客で発生が予想される問題 第10節 問題を深刻化させないための対策・対処					
第14週	第1節 社会人として、理美容業の従業員としての責任 第2節 社会保険①～公的年金～	第29週	国家試験対策					
第15週	第3節 社会保険②～医療年金～ 第4節 社会保険③～労働保険～	第30週	国家試験対策					
評価方法	<p>定期試験（前期・後期）を実施する。毎時間の板書ノートの提出、出席状況、授業態度などを考慮して成績を評価する。</p> <p>※評価目安：①定期試験（80％）・②ノート提出（10％）・③授業態度や出席（10％）</p>							
教科書 教材など	<p>・ 出版社：公益社団法人 日本理容美容教育センター。書名：運営管理</p> <p>・ プロジェクター（パワーポイント使用）</p>							
実務経験	美容師歴：6年				実務経験のある教員による 授業科目		✓	

2022年度 授業計画（シラバス）

科目名	美容技術理論	学科名	ヘアビューティ			授業方法	必須
担当教員	松井 隆 / 岩瀬 泰 / 森下 堅一	学年・学期	2年・通年	時間数	90 時間	必須・選択	講義
授業概要 ・ 授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次から継続で、美容技術理論①(パーマネントウェーブ・ヘアセッティング・ヘアカラー)について学習する。 ・ 美容技術理論Ⅱ (着付け・日本髪・エステ・メイク等) について学習する。 ・ 授業は講義形式で、単元が終わるごとに反復学習を行うことにより、自分の苦手な科目を明確にする。 ・ クラス全員が同じレベルになるようにクラス内小テストを導入しながら授業展開を行う。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美容師国家試験全員合格に向けて授業中に行った単元テストや過去問題、予想問題等を行う事で、クラス全員が安定して8割の正答率を出せるようにする。 ・ 就職した際に困らない為に、基礎知識が理解できるようにする。 						
授業計画・内容							
第1週	・5章パーマネントウェーピング ※歴史・理論・パーマ剤の分類・注意事項	第16週	・10章メイクアップ (メイクアップ概論・色彩) ※顔の形態学的な観察・色の三属性と色の分類				
第2週	・5章パーマネントウェーピング ※パーマ技術・ワインディング種類・縮毛矯正	第17週	・10章メイクアップ (スキンケア技術・) ※手順と目的を理解させる				
第3週	・6章ヘアセッティング ※ヘアセッティング技術・ローラーカーリング	第18週	・10章メイクアップ (まつ毛エクステンション) ※技術と手順、並びに注意点を理解させる				
第4週	・6章ヘアセッティング ※ブロードライ・アイロン・アップスタイル	第19週	・11章日本髪 (日本髪の由来) ※日本髪の歴史				
第5週	・7章ヘアカラーリング ※ヘアカラー概論・種類・特徴・色の基本	第20週	・11章日本髪 (日本髪の名称と特徴) ※日本髪における名称と特徴について				
第6週	・7章ヘアカラーリング ※パッチテスト・道具・技術手順・ブリーチ	第21週	・11章日本髪 (日本髪の装飾品) ※装飾品の名称や取り付け位置				
第7週	・8章エステティック (エステティック概論) ※皮膚の生理と構造	第22週	・11章日本髪 (日本髪の結髪技術) ※使用道具や技術手順				
第8週	・8章エステティック (マッサージ理論) ※フェイシャル及びデコルテマッサージ技術	第23週	・12章着付けの理論と技術 (着付けの目的) ※洋服、和服の目的と特徴				
第9週	・8章エステティック (カウンセリング理論) ※カウンセリングの目的と役割	第24週	・12章着付けの理論と技術 (礼装について) ※各種礼装の格式や特徴とは				
第10週	・8章ボディケア技術 (手技と特徴) ※手技の目的と注意点を理解させる	第25週	・12章着付け理論と技術 (着付けの要領) ※選び方や模様等の位置、バランス				
第11週	・9章ネイル技術 (ネイル技術概論) ※ネイル技術の種類	第26週	・12章着付け理論と技術 (振袖の着付け技術) ※補正技術や準備物について				
第12週	・9章ネイル技術 (爪の構造と機能) ※爪の各部名称や形状を理解させる	第27週	・12章着付け理論と技術 (和装、洋装の花嫁) ※着付け方の手順や注意点など				
第13週	・9章ネイル技術 (公衆衛生について) ※細菌感染や消毒法を理解させる	第28週	・ 国家試験対策 ・ 技術理論①の総復習・過去問題				
第14週	・9章ネイル技術 (ネイルケアの概論) ※使用道具及び技術の習得	第29週	・ 国家試験対策 ・ 技術理論②の総復習・過去問題				
第15週	・ 前期のまとめ ※前期授業の抜粋問題	第30週	・ 後期試験 (国家試験に向けて) ・ 技術理論①、②の抜粋問題				
評価方法	授業外で定期試験を実施する。授業内で単元ごとのテストや小テストを実施し、授業態度、出席状況を考慮して成績を評価する。 ※評価目安：定期試験(80%)・単元テストや小テスト(10%)・授業態度や出席(10%)						
教科書 教材など	・ 日本理容美容教育センター出版「美容技術理論①美容技術理論②」 ・ 視聴覚教材：プロジェクター(パワーポイント)						
実務経験	松井 隆(美容師歴15年) 岩瀬 泰(美容師歴23年) 森下 堅一(美容師歴7年)				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2022年度 授業計画（シラバス）

科目名	美容実習	学科名	ヘアビューティ			授業方法	必須
担当教員	松井 隆 / 岩瀬 泰 / 森下 堅一	学年・学期	2年・通年	時間数	420 時間	必須・選択	実技
授業概要 ・ 授業内容	<p>・前期は1年次で習得したワインディングとウェーブ技術の確認を行い完成度を高める。後期はレイヤーカットの習得に励み、国家試験実技課題の3パターンと衛生試験についても同時に指導を行う。</p> <p>・授業は実技形式で、反復学習を行うことにより、実技やタイムアップに繋げ、見極めで遅れが目立つ学生に対しては補習によるフォローアップを行い、クラス全員が同じレベルになるように授業展開していく。</p>						
到達目標	<p>・国家試験実技の合格に向け（ワインディング・ウェーブ・カット）を全員を規定タイムアップに入ることや衛生試験に対しても理解し行動がとれることを目標にする。また美容院に入ったときに困らないようにサロン技術の基礎知識を理解できるように目指す。</p>						
授業計画・内容							
第1週	・国家試験課題(ワインディング) * ブロッキング・センター		第16週	・国家試験スタイル（レイヤー） * スタイルの構成を理解させる。			
第2週	・国家試験課題(ウェーブ) * 1・2段目のバランス・スカルプチュアカール		第17週	・国家試験スタイル（レイヤー） * パネルの引き出し方と角度を理解させる。			
第3週	・国家試験課題(ワインディング) * フロントの収め方		第18週	・国家試験スタイル（レイヤー） * タイムアップ40分			
第4週	・国家試験課題(ウェーブ) * 3段目 スカルプチュアカール収め方		第19週	・国家試験スタイル（レイヤー） * タイムアップ35分			
第5週	・国家試験課題(ワインディング) * 右バックサイド・サイドの収め方		第20週	・ワインディング（タイム20分を目安） ・オールウェーブ（タイム30～25分目安）			
第6週	・国家試験課題(ウェーブ) * 4・5段目 リフトカールの作り方		第21週	・国家試験課題（ワイディング・ウェーブ） * 使用した道具の使い分けと衛生指導。			
第7週	・国家試験課題(ワインディング) * 左バックサイド・サイドの収め方		第22週	・国家試験課題（ワイディング・ウェーブ） * 衛生チェック			
第8週	・国家試験課題(ウェーブ) * 6・7段目メイポール・クロッキノール作り方		第23週	・国家試験課題（レイヤーカット） * タイムアップ30分			
第9週	・国家試験課題(ワインディング) * タイムアップ20分		第24週	・国家試験課題（レイヤーカット） * タイムアップ25分。衛生指導			
第10週	・国家試験課題(ウェーブ) * 小テスト タイム30分		第25週	・国家試験課題（ワイディング・ウェーブ・カット） * 衛生チェック。カット20分を目安。			
第11週	・国家試験課題(ワインディング) * 小テスト タイム20分		第26週	・国家試験課題（ワイディング・ウェーブ・カット） * 見極め。補習によりフォローアップ			
第12週	・国家試験課題(ウェーブ) * 小テスト タイム25分 衛生試験		第27週	・国家試験課題（ワイディング・ウェーブ・カット） * 衛生チェック。それぞれの課題のタイムを計る。			
第13週	・国家試験課題(ワインディング) * 小テスト タイム20分 衛生試験		第28週	・国家試験課題（ワイディング・ウェーブ・カット） * 見極め。補習によりフォローアップ			
第14週	・国家試験課題(ワインディング・ウェーブ) * 見極めテスト 国家試験の規定タイム		第29週	・国家試験課題（ワイディング・ウェーブ・カット） * 全員がタイムに入るように指導。			
第15週	・前期試験(ワインディング・ウェーブ) * 国家試験の規定タイム・衛生試験		第30週	・国家試験課題（ワイディング・ウェーブ・カット）* 後期試験(課題に合わせたタイムと衛生チェック。			
評価方法	<p>・授業内で定期試験を実施し、実技・衛生チェックの見極め、授業態度や出席状況を考慮して成績を評価する。 ※評価目安：定期試験（80％）・実技・衛生チェックの見極め（10％）・授業態度や出席（10％）</p>						
教科書 教材など	<p>・出版社：理容美容教育センター 書名：「美容技術理論Ⅰ・Ⅱ」「美容実習Ⅰ・Ⅱ」 ・出版社：新美容株式会社 書名：TOMOTOMO</p>						
実務経験	松井 隆(美容師歴15年) 岩瀬 泰(美容師歴23年) 森下 堅一(美容師歴7年)				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2022年度 授業計画（シラバス）

科目名	ヘアカラーコーディネート	学科名	ヘアビューティ学科			授業方法	講義
担当教員	安井けい子	学年・学期	2年・通年	時間数	30時間	必須・選択	必須選択
授業概要 ・ 授業内容	<p>1年次に学んだ色彩理論のうち重要項目を復習し、さらなる色彩理論を学び、色彩知識・色彩感覚を深める授業である。</p> <p>学んだ色彩知識や理論を専門分野に活用できるよう、五感や感性、色彩感覚を磨く個人・グループワークでの実習を行う。パーソナルカラー理論を学び、パーソナルカラー診断実習を行う。</p>						
到達目標	<p>1年次に身に着けた社会人としてのマナーをより習慣化できるよう、あいさつ、人との関わり方、コミュニケーション力等、接客力を磨く。</p> <p>学んだ色彩知識や理論を現場で活用できるよう実践力を高める。</p> <p>パーソナルカラーを取り入れた顧客への提案ができるよう理論・実習を通じて実践力を身に着ける。</p>						
授業計画・内容							
第1週	1年次ポイント復習と2年カリキュラム紹介			第16週	前期試験対策		
第2週	色彩と自己表現 「コラージュ作成実習①」			第17週	パーソナルカラー理論と実習③		
第3週	色彩と自己表現 「コラージュ作成実習②と発表」			第18週	パーソナルカラー理論と実習④		
第4週	色彩理論 「配色とイメージ」、カード実習			第19週	パーソナルカラー理論と実習⑤		
第5週	色彩理論 「照明と色の見え方」			第20週	パーソナルカラー総復習と小テスト		
第6週	色彩理論 「対比と同化効果と色の見え方」			第21週	パーソナルカラー診断理論と実習①		
第7週	ヘアカラーコーディネート実習①			第22週	パーソナルカラー診断理論と実習②		
第8週	ヘアカラーコーディネート実習②と発表			第23週	パーソナルカラー診断グループワーク①		
第9週	ヘアデザイン自由画作成と発表			第24週	パーソナルカラー診断グループワーク②		
第10週	色彩と嗅覚の相関関係 「アロマセラピー体験」			第25週	色彩と季節感実習 「和紙でクリスマスカード作成」		
第11週	パーソナルカラー理論と実習①			第26週	パーソナルカラーとヘアカラー理論と実習①		
第12週	パーソナルカラー理論と実習②			第27週	パーソナルカラーコラージュ作成実習		
第13週	パーソナルカラーグループワーク			第28週	パーソナルカラーグループワークと発表		
第14週	季節感と色彩実習 「せんす作成」			第29週	後期試験対①、カラーカード実習		
第15週	色彩とエンターテイメント 「映画と色彩」			第30週	後期試験対②		
評価方法	試験60%、出席率と授業態度20%、提出物20%						
教科書 教材など	色彩検定3級テキスト、パーソナルカラー検定3級テキスト、カラーカード						
実務経験	カラスクール主宰、色彩・パーソナルカラー講師24年				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2022年度 授業計画（シラバス）

科目名	美容総合研究		学科名	ヘアビューティ			授業方法	必須選択
担当教員	松井 隆 / 岩瀬 泰 / 森下 堅一		学年・学期	2年・通年	時間数	60時間	必須・選択	演習
授業概要 ・ 授業内容	<p>・1年次で学んだ毛髪の仕組みや薬剤の知識を復習を兼ねて、座学を交え（パーマ・カラー）の使用方法や注意点を教える。</p> <p>・授業は実技演習を中心に美容の基礎となる各技術をデモンストレーションで細かく解説をしながら伝え、モデルウィッグや相モデルで実習を行い、美容師として必要な専門用語等を教えより実践的な教育を目指す。</p>							
到達目標	<p>・美容院に就職した際に、先輩や店長またオーナーが施術をしている様子の「見る」ポイントを教え、また美容の専門用語が少しでも理解できることで美容雑誌の内容が把握でき今後の勉強に役立てる。</p>							
授業計画・内容								
第1週	・カット (カット理論・展開図の考え方を理解する)			第16週	・パーマ (パーマネットウェーブ理論)			
第2週	・カット (サロンスタイル・ロング)			第17週	・パーマ (スパイラルパーマ・ウィッグで実践する)			
第3週	・カット (サロンスタイル・ミディアム)			第18週	・パーマ (ピンパーマ・ウィッグで実践する)			
第4週	・カット (サロンスタイル・ショート)			第19週	・パーマ (ツイストパーマ・ウィッグで実践する)			
第5週	・カット (サロンスタイル・メンズ)			第20週	・縮毛矯正 (縮毛矯正理論・薬剤知識を学ぶ)			
第6週	・カット (セニングカットの色々な技法を覚える)			第21週	・縮毛矯正 (アイロン操作・ウィッグで実践する)			
第7週	・カット (レザーカットの使い方を覚える)			第22週	・縮毛矯正 (パーマをあてたウィッグで実践する)			
第8週	・カラー (ヘアカラーリング理論・染毛のメカニズム理解)			第23週	・ヘアアレンジ (編み込みが入ったアレンジスタイル)			
第9週	・カラー (オシャレ染め・塗布方法・ウィッグで実践する)			第24週	・ヘアアレンジ (成人式アップ・ホットカラーの使い方)			
第10週	・カラー (白髪染め・塗布方法・ウィッグで実践する)			第25週	・ヘアアレンジ (パーティアップ・ヘアアイロンのつく)			
第11週	・カラー (ブリーチ・塗布方法・注意点)			第26週	・卒業制作 今まで習った技術を使ってウィッグで作品を作る			
第12週	・カラー (ウィーピングの技法・効果を学ぶ)			第27週	・卒業制作 今まで習った技術を使ってウィッグで作品を作る			
第13週	・カラー (スライシングの技法・効果を学ぶ)			第28週	・卒業制作 今まで習った技術を使ってウィッグで作品を作る			
第14週	・カラー (ヘアマニキュア・塗布方法・注意点)			第29週	・卒業制作 今まで習った技術を使ってウィッグで作品を作る			
第15週	・前期試験 カット・カラーに関するレポート提出			第30週	・後期試験 パーマ・縮毛矯正・アレンジに関するレポート提出			
評価方法	<p>・定期試験は授業内で実施し、授業の進捗状況に応じ、実技の成長度合いや衛生に係る見極めと、授業態度、出席状況、各技術でのレポート提出を考慮して成績を評価する。</p> <p>※評価目安：レポート提出（40%）実技の成長度と衛生見極め（40%）授業態度や出席（20%）</p>							
教科書 教材など	<p>・出版社：新美容出版株式会社発行。 書名：「SINBIYO」</p> <p>・出版社：日本理容美容教育センター発行。 書名：「美容理論Ⅰ」</p>							
実務経験	松井 隆(美容師歴15年) 岩瀬 泰(美容師歴23年) 森下 堅一(美容師歴7年)					実務経験のある教員による 授業科目		✓

2022年度 授業計画（シラバス）

科目名	一般教養	学科名	ヘアビューティ学科			授業方法	講義
担当教員	仁井名 由記	学年・学期	1年・通年	時間数	45 時間	必須・選択	必須選択
授業概要 ・ 授業内容	1年に引き続き、高校までに学習した政治・経済の仕組み、地理歴史の復習を行う。また、新聞の読み方などを通じて時事常識についても知識を深めさせる。後期にはパソコンを活用した広報活動及びSNSの注意点についても学ばせる。授業は講義形式で小テストをしながら学生の苦手としているところを把握し授業展開を行う。また、国家試験筆記に対応できるように過去問を参考にして読み方と説き方のポイントを教える。						
到達目標	美容院に就職したときに、お客様とコミュニケーションを図る上で最低限しておくべき、一般常識として世界情勢や日本の都道府県及び新聞からの情報収集ができるように教え今後役に立てられることを目指す。						
授業計画・内容							
第1週	国会の成り立ち 高校までの復習		第16週	四字熟語について			
第2週	同上練習問題によるまとめ		第17週	同上練習問題によるまとめ			
第3週	選挙制度等の公民的知識について高校までの復習		第18週	故事成語、語源について			
第4週	同上練習問題によるまとめ		第19週	同上練習問題によるまとめ			
第5週	経済の仕組み		第20週	新聞の読み方			
第6週	世界の情勢について高校までの復習		第21週	時事常識の解説			
第7週	同上練習問題によるまとめ		第22週	ブレインストーミング (KJ法)			
第8週	同上練習問題によるまとめ		第23週	パソコンを活用した顧客情報の管理・広報活動について			
第9週	社会保障制度（雇用保険）について高校までの復習		第24週	SNSの使用上の注意点			
第10週	同上練習問題によるまとめ		第25週	情報セキュリティについて			
第11週	社会保障制度（労働基準法等）について高校までの復習		第26週	ファッションの歴史			
第12週	同上練習問題によるまとめ		第27週	同上練習問題によるまとめ			
第13週	日本の地理（都道府県名）について高校までの復習		第28週	髪形の歴史			
第14週	岡山の歴史について高校までの復習		第29週	同上練習問題によるまとめ			
第15週	同上練習問題によるまとめ		第30週	礼装の種類			
評価方法	定期試験と毎授業時間後に行う小テスト、課題、出席状況、授業態度を考慮して成績を評価する。 評価目安 定期試験34% 小テストやレポート33% 授業態度33%						
教科書 教材など	大人の国語力大全 教育センター発行物 講師作成プリント 読売新聞						
実務経験	株式会社 毛髪クリニックリーブ21 3年				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2022年度 授業計画（シラバス）

科目名	リラクゼーション技法	学科名	ヘアビューティ			授業方法	必須・選択	必須選択	
担当教員	松井 隆 / 岩瀬 泰 / 森下 堅一	学年・学期	2年・通年	時間数	60時間	必須・選択	必須・選択	実技	
授業概要 ・ 授業内容	<p>・美容院に於いてシャンプーブースはサイドシャンプーとバックシャンプー対応に分かれている。そのため就職をした際にどちらでも対応できる基礎技術を教える。またスカルプマッサージ（ヘッドスパ）技術も必要とされているため、バックシャンプーと並行して教える。</p> <p>・授業は実技形式で相モデルで行うが、同じモデルにならないように工夫することで、色々な髪質や頭皮に対応できるように授業展開をする。</p>								
到達目標	<p>・リラクゼーション技法の授業を通して美容師の役割が、スタイルを作るだけでなく、毛髪及び・頭皮のケアやお客様にリラックス効果を与えることも技術であること知ってもらい、また施術者は全ての技術を行う上で衛生上、清潔な道具や身なりが必要であることを理解させる。</p>								
授業計画・内容									
第1週	・バックシャンプーを理解させる ＊バックシャンプーの手順を教える。			第16週	・スカルプマッサージ ＊相モデル：軽擦法～打法までを理解させる				
第2週	・バックシャンプーを理解させる ＊バックシャンプーの姿勢を教える			第17週	・スカルプマッサージ ＊頭部のツボ（百会・目窓・太陽）の位置を確認				
第3週	・バックシャンプー ＊バックシャンプーのシャワーヘッド使い方。			第18週	・スカルプマッサージ ＊頭部のツボ（百会・目窓・太陽・）の位置を確認				
第4週	・バックシャンプー ＊バックシャンプーのネーブ部分の流し方。			第19週	・スカルプマッサージ ＊頸部のツボ（天ゆう・天柱・風池の位置を確認）				
第5週	・バックシャンプー ＊シャンプー&トリートメント			第20週	・スカルプマッサージ ＊頸部のツボ（天ゆう・天柱・風池の位置を確認）				
第6週	・サイドシャンプーを理解させる ＊サイドシャンプーの手順を教える。			第21週	・スカルプマッサージ ＊圧迫法（圧迫弛緩・肩井のツボを確認）				
第7週	・サイドシャンプーを理解させる ＊サイドシャンプーの姿勢を教える			第22週	・バックシャンプー（モデルチェンジ） ・スカルプマッサージ全体の流れ				
第8週	・サイドシャンプー ＊サイドシャンプーのシャワーヘッド使い方。			第23週	・サイドシャンプー（モデルチェンジ） ・スカルプマッサージ全体の流れ				
第9週	・サイドシャンプー ＊サイドシャンプーのネーブ部分の流し方。			第24週	・バックシャンプー&トリートメント ・スカルプマッサージ全体の流れ				
第10週	・サイドシャンプー ＊シャンプー&トリートメント			第25週	・サイドシャンプー&トリートメント ・スカルプマッサージ全体の流れ				
第11週	・アームマッサージ ＊腕の軽擦・強擦・揉捻法			第26週	・ロールプレイング ＊受付・施術・案内までの練習				
第12週	・ハンドマッサージ ＊手背・手掌・指のマッサージ			第27週	・ロールプレイング ＊受付・施術・案内までの練習				
第13週	・ブロードライ ＊ドライヤーの使い方・ブラシの使い方			第28週	・バックシャンプー（モデルチェンジ） ・スカルプマッサージ全体の流れ				
第14週	・アーム&ハンドマッサージ ＊相モデルでブロードライスタイリング			第29週	・サイドシャンプー（モデルチェンジ） ・スカルプマッサージ全体の流れ				
第15週	・授業中に前期試験を実施。			第30週	・授業中に試験を実施（総まとめ）				
評価方法	<p>・定期試験として、前期・後期終了時に実技及び衛生関わるチェックの見極め、レポート、成長度、授業態度、出席状況を考慮して成績を評価する。</p> <p>※評価目安：実技及び衛生チェック（40%）・レポート（40%）授業態度・出席・成長度（20%）</p>								
教科書 教材など	出版社：日本理容美容教育センター。 書名：美容理論Ⅱ・美容実習Ⅱ ・メーカー作成：スカルプマッサージマニュアル								
実務経験	松井 隆(美容師歴15年) 岩瀬 泰(美容師歴23年) 森下 堅一(美容師歴7年)				実務経験のある教員による 授業科目				✓

2022年度 授業計画（シラバス）

科目名	サロンワークⅠ		学科名	ヘアビューティ			必須・選択	必須選択
担当教員	(前期)：中村 友里恵 / (後期)：担任 / 柿本 典子		学年・学期	2年・通年	時間数	60 時間	授業方法	実技
授業概要 授業内容	<p>(前期)：ネイルの基礎知識、技術を中心に道具や器具の使い方を学ぶ授業である。・授業は実技形式でサロンワークに役立つ実習を行い、必要な接客技術も身に付けられるようにする。</p> <p>(後期)：サロンワークに役立てるために着付けやカラー・パーマとカット・アップの基礎技術から応用を学ぶ。・授業は実技形式を中心にグループワークを中心に行い、相モデルで接客業のたい大切さを学び、トータル的に作品制作をする。</p>							
到達目標	<p>(前期)：ネイルの基礎知識、挨拶、接客を含め、将来働く職場での興味を持たせ、実際に就職した際に実践的な行動が取れるようにする。</p> <p>(後期)：サロンに就職した際に極力知らない技術が無いように教え、前期に引き続き美容師の仕事は技術だけではなくお客様の気持ちになれることの大切さを教えて行きたい。</p>							
授業計画・内容								
第1週	自己紹介、授業の進め方、教材確認、ラベル・名前・シール貼り			第16週	着付け（着付けの基礎：和服と洋装の違い）			
第2週	爪の構造と機能について			第17週	着付け（下着の種類と着付け方）			
第3週	爪のカットスタイル・エメリーボードの使い方説明チップで5種類の形をとる			第18週	小物の扱い方・着物と帯の種類			
第4週	爪のカットスタイル②チップで5種類の形をとり、提出			第19週	小物の扱い方とたたみ方・結婚式の装い。			
第5週	消毒方法と種類・器具の消毒の手順、病気について			第20週	結婚式の装い。			
第6週	ネイルケアの手順説明、カラーリング説明（ペーパーでカラーリング練習）			第21週	*グループ決め（役割分担） 美容雑誌等を参考に作品のイメージを決める。			
第7週	ネイルケア、カラーリング 自分の手で練習（シャイナーで爪磨き）			第22週	ウィッグで練習して分からないところを研究した質問をする。			
第8週	ジェルネイルの基礎知識			第23週	ウィッグで練習及び研究をする			
第9週	ジェルカラーの塗り方（チップで練習）			第24週	作品のテーマを考える。			
第10週	ネイルアートの種類、描き方（ジェルネイルも含む）			第25週	作品制作（カラー&メイク）			
第11週	ネイルアートの実践（フラットアート）			第26週	作品発表（テーマとポイントの説明）			
第12週	ネイルアートの実践②（ジェルアート）			第27週	トータルバランスの審査。			
第13週	ネイルアートの実践③（ネイルチップの作成）			第28週	トータルバランスの審査と結果発表。			
第14週	ネイルアートの実践③（ネイルチップの作成・提出）			第29週	ヘアカラー実践（パッチテストの理解を深める。）			
第15週	マッサージの手順・説明・実践（ハンドマッサージ・パラフィンパック）			第30週	ヘアカラー実践（希望色に染める）			
評価方法	<p>(前期)：学期末試験で筆記試験の結果、授業態度や出席状況及び課題提出状況を考慮して成績を評価する。</p> <p style="text-align: center;">※評価目安：筆記試験結果（70%）・授業態度や出席（20%）・課題提出（10%）</p> <p>(後期)：定期試験を実施し、授業内でトータルバランス審査結果と授業態度や出席状況を考慮して成績を評価する。 ※</p> <p>評価目安：トータルバランス審査結果（80%）・授業態度や出席（20%）</p>							
教科書 教材など	(前期)：出版社 「日本理容美容教育センター」 書名：美容技術理論Ⅱ及び美容実習Ⅱ			(後期)：出版社 「女性モード及び新美容出版」 書名：HAIRMODO・TOMOTOMO・SHINRIYO				
実務経験	前期：中村 友里恵(ネイルサロン経歴13年) / 後期：担任					実務経験のある教員による 授業科目		✓

2022年度 授業計画（シラバス）

科目名	ヘアデザインⅢ	学科名	ヘアビューティ学科			授業方法	実技	
担当教員	岡野 宏行	学年・学期	2年・前期	時間数	60時間	必須・選択	選択	
授業概要 ・ 授業内容	美容技術に要する各道具の使い方、姿勢を実践を通じて教える。今時代の技術教育をアプローチ。普段の授業では習えないクリエイティブな部分を教えると同時に、サロンに就職して役立つ些細なこと、言葉遣い、作法も教える。そして美容業への理解を深めてもらう。							
到達目標	カット、カラー、パーマ、ヘアセット、どの分野の技術も今の時代にマッチしたことを経験してもらう。来年度からは社会人として学校ではなく美容業という社会の中を生きていくという自覚を抱いてもらう。							
授業計画・内容								
第1週	自己分析、目標設定、美容道具の取り扱い方							
第2週	ロングヘアカット、チェックカット、アシスタント学							
第3週	ポニーテールアレンジ、カールアイロン技術、技術学							
第4週	多種類の編み込み、ハーフアップアレンジ、アシスタント学							
第5週	ブリーチ知識、インナーカラー							
第6週	オンカラー知識、カラーレシピ作り、技術学							
第7週	ワンレングスカット、ストレートアイロン技術、スタイリング法							
第8週	グラデーションカラー、アシスタント学							
第9週	チーム対抗ヘアセット選手権、グラデーションカット							
第10週	ハイライトカラー、技術学							
第11週	メンズカット、メンズカット理論							
第12週	デザインパーマ、薬剤学、アシスタント学							
第13週	ベリーショートスタイル、刈り上げ技術、メンズスタイリング							
第14週	前期試験仕込み、デザイン理論、アシスタント学							
第15週	前期試験							
評価方法	実技試験、出席状況、授業態度を考慮して成績を評価。							
教科書 教材など	美容技術理論、文化論、衛生管理							
実務経験	美容師歴12年					実務経験のある教員による 授業科目		✓

2022年度 授業計画（シラバス）

科目名	サロンワークⅢ	学科名	ヘアビューティ学科			授業方法	実技
担当教員	吉川 利也	学年・学期	2年・前期	時間数	60時間	必須・選択	必須選択
授業概要 ・ 授業内容	<p><授業概要>サロンワークで1年目から自信を持ち活躍できる基本的な美容技術、知識、社会人としての教養を養う。</p> <p><授業方法>基本的に座学で理論、知識を深め、実技にて美容技術を体験し、理解を深める。またそれをもとに評価していく。授業内容によっては薬剤の使用やプロジェクターなどの視覚的資料も行っていく。</p>						
到達目標	<p>他の科目同様、国家試験合格を念頭に置きその中でもよりサロンワークに近い目線で基礎的な技術や知識を授業の中に落とし込んで理解と美容業への好奇心を深めていくことを目標とする。また技術、知識のみならず社会人になっていく上で必ず必要の礼儀、考え方、在り方も身につけることができるようにする。</p>						
授業計画・内容							
第1週	オリエンテーション、ベーシックコースの概要						
第2週	シザーの持ち方、開閉練習。ロングスタイルのベーシックカット。						
第3週	ロングボブのカット。セニングの理論、大切さ。セニングでの仕上げ方。						
第4週	カット（ショートボブ、グラデーションカット理論）。アイロンでの仕上げ方。						
第5週	幅広いコテ巻きの使い方を知る。夢を持つことの大切さを考える。						
第6週	ブリーチを使用しインナーカラーを施す。感謝と恩について考える。						
第7週	カラー理論（ハイライト）。基本的なホイルワークの実技。あいさつの大切さについて考える。						
第8週	毛束を使ってマニキュア（3原色）でカラーの調合、レシピを作り発表し共有する。						
第9週	ヘアアレンジ。幅広い編み込み技術。グループに分かれて実習。継続力の大切さについて考える。						
第10週	ショートスタイル理論、カット。ロング、ボブとは違う質感調整の考え方。前髪の切り方。						
第11週	メンズカット、刈り上げの切り方。スタイリング剤の使い方。挑戦と成長の関係性について知る。						
第12週	プロジェクターを使いカラーやパーマの髪の毛に対するケミカル理論。パーマをロッドの代用となるもの（割りばし等）でパーマの当たり方、原理を直に体験して学ぶ。						
第13週	前期試験課題の解説及びその準備。事前のウィッグ仕込み。課題スタイルの共有。						
第14週	前期試験（課題スタイルをコピーカット、スタイリング）						
第15週	前期試験の結果発表。これまでの振り返りを含め、将来ビジョンについて考える。						
評価方法	<p>①前期試験の評価（60%）</p> <p>②授業態度と出席（20%）</p> <p>③授業中の技術見極め（20%）</p>						
教科書 教材など	<p>出版社：日本理容美容教育センター《美容技術理論Ⅰ》</p> <p>出版社：新美容出版等（美容業界雑誌） 書名：SHINBIYO/BOB等</p> <p>プロジェクター、パワーポイントの使用</p>						
実務経験	美容師歴：8年				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2022年度 授業計画（シラバス）

科目名	サロンワークⅢ	学科名	ヘアビューティ学科			授業方法	実技	
担当教員	宮家 未菜	学年・学期	2年・前期	時間数	60時間	必須・選択	必須選択	
授業概要 ・ 授業内容	<p>・基礎から教え、ヘアメイクの奥深さや技術のスキルアップを目指し、流行りのヘアメイクから、基礎のヘアメイクスタイルなどを学ぶ。</p> <p>・授業は実技形式で行い、技術的な理論を踏まえ実習に繋げる。また実践に役立てるために相モデルで授業を実施し衛生面にも気をつけ、メイクブラシの洗い方などを交え職業に繋げる授業である。</p>							
到達目標	<p>・目標としては、将来、就職したときに必要なお客様への対応方法として接客マナーや態度などを踏まえ、ヘアスタイルの種類や応用編を理解し、お客様に対応できるように、就職活動にプラスになるようにする。</p>							
授業計画・内容								
第1週	オリエンテーション、ホットカラーの巻き方の説明。ホットカラー10巻きにチャレンジ。							
第2週	アイロンの使い方、流行りのヘアアレンジ。							
第3週	流行りのヘアアレンジ							
第4週	夜会巻							
第5週	夜会巻							
第6週	花嫁ヘアアレンジ							
第7週	花嫁メイク							
第8週	ヘアアレンジ応用編①							
第9週	ヘアアレンジ応用編②							
第10週	グループにわかれてヘアメイク（課題あり）							
第11週	グループにわかれてヘアメイク（課題あり）							
第12週	日本髪							
第13週	日本髪							
第14週	テストのに向けて練習学科テスト・ドレスの着せ方レクチャー							
第15週	テスト							
評価方法	<p>定期試験を実施し出席率、授業態度やミニテストを評価し、花嫁ヘアメイクテスト（ドレス着用）を考慮して成績を評価する。</p> <p>*評価目安：テスト及び毎時間の課題やレポート（80%） 授業態度や出席率（20%）</p>							
教科書 教材など	溝口和也さんのヘアアレンジレッスンブック							
実務経験	美容師・ブライダルヘアメイク14年勤務					実務経験のある教員による 授業科目		✓

2022年度 授業計画（シラバス）

科目名	サロンワークⅢ（着付け）	学科名	ヘアビューティ学科			授業方法	実技	
担当教員	清水 直子	学年・学期	2年・前期	時間数	60時間	必須・選択	選択	
授業概要 ・ 授業内容	<p>◇和装着付けマナー、着物・小物の取り扱い、名称などを理解させ、着付けの基礎となる留袖着付けの技術を学ぶ授業。</p> <p>◇授業は実技形式で、座って挨拶（正座） ボディーを使用して個人レベルに合わせて細かく指導する。相モデルにより、体型別補整の仕方、着付けの仕方を個々に指導する。</p>							
到達目標	<p>・美容師において特殊技能として必要な和装着付けを、冠婚葬祭の対応として基礎から応用まで教え、最終留袖着付けは25分以内で着付けできるように目指す。また、浴衣、振袖着付けの技術の基礎も教えサロンワークに生かせるようにしたい。</p>							
授業計画・内容								
第1週	・着付けのマナー、着物の取り扱い方 ・着物各部の名称を覚える。 ・長襦袢半襟のつけ方を学ぶ。							
第2週	・長襦袢の襟とじ。体型補整用コットン、胸当てガーゼ、腰当布を作成しボディ補整を学ぶ。							
第3週	・長襦袢着付け（ボディ使用）・腰紐の結ぶことになれる。留袖着付けに、着物の取り扱い方を学ぶ。							
第4週	・袖着付け（ボディ） ・帯結び 二重太鼓を学ぶ。							
第5週	・袖着付け（ボディ） ・帯結び 二重太鼓。 着物の衿合わせ、前中心、後ろ中心を揃える。							
第6週	・留袖着付け 帯結び（ボディ使用） 着物と帯結びのバランスを細かく学ぶ。							
第7週	・留袖着付け 帯結び（ボディ使用） 留袖着付け（礼装）の小物バランスを学ぶ。 帯揚げ、帯締め、末広							
第8週	・留袖着付け 帯結び（ボディ使用） 格式高い留袖着付けのバランスを学ぶ。							
第9週	・留袖着付け 帯結び（ボディ使用） 30分以内で着せる練習。							
第10週	・留袖着付け 帯結び（ボディ使用） 25分以内で着せる練習。							
第11週	・留袖着付け 帯結び（ボディ使用） 認定テストタイム25分で着せる。							
第12週	・浴衣着付け（相モデル） 浴衣の着せ方 半幅帯の結び方 変わり帯結び 浴衣自装							
第13週	・振袖着付け（ボディ使用） 振袖の着せ方（留袖との違い） 袋帯の結び方							
第14週	・振袖着付け（相モデル） 体型別補整 振袖着付け 袋帯の結び方 創作帯結び							
第15週	・振袖着付け（ボディ使用） 振袖着付け 創作帯結び 発表							
評価方法	<p>・授業中に認定試験を実施し、授業内で技術見極め、授業態度や出席状況を考慮して成績を評価する。</p> <p>※評価目安：認定試験（80％）・授業内の技術見極め（10％）・授業態度や出席率（10％）</p>							
教科書 教材など	<p>・出版社：公益社団法人・日本理容美容教育センター 書名：美容技術理論Ⅱ</p> <p>・出版社：（株）アイメディア 書名：ゆかたアップ&帯結びbook</p>							
実務経験	美容師経歴34年 着付歴31年					実務経験のある教員による 授業科目		✓